

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年1月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890100019		
法人名	有限会社 サンパル		
事業所名	小規模多機能型 小吹ケアセンター	ユニット名	—
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町705-8		
自己評価作成日	平成25年7月24日	評価結果 市町村受理日	平成26年1月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kani=true&JigyosyoCd=0890100019-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年9月24日	評価機関 決裁日	平成25年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・利用者一人一人のペースを大事にしている。全員でレクリエーションを行うこともあれば、居室でゆっくりとスタッフと会話を楽しんだりしている。また、利用者の状態によっては、一緒に散歩に出かけたりと利用者に関わる時間・接する時間を大切にしている。</p> <p>・入所者一人一人の言葉に耳を傾けそれぞれの思いに寄り添いながら信頼関係を築き、安心して生活できる環境を作っている。また、入浴に関して毎日入る方、一日置きに入る方など本人の希望を伺い利用者本意の生活が保てるよう意識している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>高齢者専用賃貸住宅やグループホームと併設しているため、職員は利用者が他事業所へ自由に行き来して会話を楽しんだり、高齢者専用賃貸住宅の利用者と一緒に食事をしたりして交流ができるよう支援している。</p> <p>職員は利用者一人ひとりの声に耳を傾け、思いに寄り添い、信頼関係を築きながら安心して生活ができるよう努めている。</p> <p>利用者の希望を取り入れた年間の外出計画を立て、外食やドライブ、花見など様々な外出支援を行い、利用者が生き生きと暮らせるように取り組んでいる。</p> <p>一般浴槽や中間浴槽、特殊浴槽を設置しているため、利用者の状態に応じていつでも安心して入浴ができるほか、毎週日曜日は足浴を支援して寛げるよう取り組んでいる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自己決定しやすい環境作りやレク活動により生きる活力を見出す支援をしている。開放された施設との理念を施設長や管理者、職員で作り実践に努めている。	施設長や管理者、職員で話し合い、「安心して暮らせる切れ目のない介護」との理念を作成しているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成するまでには至っていない。 職員は理念を申し送りやミーティング時に確認し、共有しながら実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念に見直すことを提案する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・月に一度、シルバー体操のボランティアの方に来て頂き、体操の指導を受けている。 ・隣接の福祉施設に敬老会やクリスマス会など交流スペースをお借りしてボランティアの方に参加して頂いている。	利用者は職員と一緒に地域の盆踊り大会に参加して地域の人々と交流している。 カラオケなどの地域のボランティアを受け入れているほか、郵便局のボランティアグループ「ゆうちゃんバンド」による演奏を聞いたり、月1回シルバー体操のボランティアグループによる指導を受けたりしながら地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、利用者の家族の方や市職員、地主さんなど参加して頂き意見交換を行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況についてや行事、防災訓練について報告している。また、毎月行なっている施設内研修の内容なども報告している。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域住民などで2ヶ月に1回グループホームと合同で開催し、会議録を作成している。 会議では事業所の状況報告や行事報告をしているほか、避難訓練などについて意見交換を行っている。 運営推進会議に市職員も参加しているが、全ての運営推進会議に参加してもらえないまでには至っていない。	福祉サービス向上のため、市職員もしくは地域包括支援センター職員が全ての運営推進会議に参加することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点について、担当者に意見を聞きサービスに役立てている。	市職員は運営推進会議で熱中症対策や他事業所との交流などを提案している。 管理者はパンフレットを持参して市福祉課を訪問し、担当者に運営について相談したり、意見を聞いたりして、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より身体拘束のないケアについては、職員間で話をしたり勉強会で取り上げるなど、施設全体で考え取り組んでいる。夜間のみ施錠しているが、日中はしていない。	年1回身体拘束排除に関する勉強会を実施している。 月1回の全体会議で、日々のケアの中で身体拘束をしていないかどうかを話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 玄関や居室は施錠しておらず、帰宅願望が強い利用者が一人で出かけようとした際には、止めるのではなく一緒に付いて行くなど、安全に配慮しながら自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、施設長や管理者をはじめ、職員全体で常に監視しあい、事前防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修等で説明のあったものについて、職員へ説明し資料を回覧している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書で説明を行い、利用者、家族に同意を受けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・常に利用者とコミュニケーションをとり意見、要望を検討し、反映できるものは実践している。また、重要事項説明書に苦情等申し立て先を明示するとともに施設内に意見箱を設置している。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。 家族等の意見や要望は連絡帳を活用するほか、職員は送迎時に家族等に声をかけ、話し易い関係づくりに努めている。 家族等の要望を受け、希望する利用者には迎える時に消灯や施錠の確認をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議や代表者会議などで、運営の方針や自由な意見を話し合い、実施している。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を気軽に出せるような関係づくりに努めるとともに、月1回の全体会議で職員から話を聞き、出た意見や要望をまとめ、グループホームや小規模多機能型居宅介護事業所の代表者で月1回開催する会議で話し合っている。 職員の要望を受けて入浴剤やレクリエーションの材料を購入するなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状態を踏まえた、労働時間等の環境の調整の必要性を理解しており、柔軟なシフト調整の作成を勤務作成担当者に指示している。施設長及び管理者等からの聞き取りにより給与水準・賞与等の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し法人内外の研修を受講できる機会を確保している。外部研修受講者は、定期ミーティングを利用して報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣の特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所と連携を取り、情報交換会や施設見学、また合同の行事などを行い交流の機会を作っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、本人が来所された際や自宅に訪問した際に本人と顔を合わせ話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった場合は、必ず本人と面談するようにしており、本人の状態を把握したうえで再度家族と話し合いをもつようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、他のサービスの利用調整を行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な受け止め方をしないよう、個々の言動、感情の変化の背景にあるものを理解する姿勢を持って、個々の性格を導き出せるよう、こまめに接する時間を設け、共に過ごし支えあえる関係作りを意識して取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態、支援内容の理解の共通を深め支援していけるよう家族との話し合いを重ね情報の支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の継続。また、友達の訪問や頼まれたはがきを出すなど、馴染みの関係が途切れないように努めている。	職員は長期宿泊をしている利用者に友人や家族等が訪れた際には外出を促しており、利用者は友人や家族等と一緒に馴染みの食事処や店に出かけている。 職員は近隣の馴染みの理・美容師が月1回定期的に来訪することができるよう連絡調整をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見て、食堂スペースでの席を配慮したり、日常的作業で利用者が自然と共同作業出来る環境を支援している。トラブルが生じた場合、利用者同士の話し合いを持ったり、職員が間に入り関係修復に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、相談窓口として活用して頂くよう声掛けをしている。また、電話連絡、手紙、訪問等で状態の把握に努めるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族へのそれぞれの思いを聞き取りしている。困難な場合であっても、本人の立場に立った視点での状態把握を意識して取り組んでいる。	職員は契約時のアセスメントの記録から生活歴や思いを把握するとともに、センター方式「私の姿の気持ちシート」の記録から、利用者が何を望み何をしたいのかを共有して支援に取り組んでいる。 現在は意志疎通が困難な利用者はいないが、職員は利用者に話しかけたり送迎時に家族等から話を聴いたりして、思いや意見等の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取りや、利用者間の会話の中で情報を得るように努め、理解した上でケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録へ日々の様子を記録し、状態把握に努めると共に、連絡ノートやミーティングの時間を活用して、気付きなど全職員が状態を把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族それぞれの立場から「どのような生活を望んでいるか」を聞き取りした上で関係機関、職員と協議し計画を立てている。また、評価、アセスメントを会議の場で話し合い、より良い介護計画を作成し支援している。	介護計画は利用者の自宅を職員が訪問して利用者や家族等と話し合い、意向や課題を把握するとともに、管理者や看護職員、介護支援専門員、介護職員で職員会議を開催し、利用者の意向にそった介護計画を作成している。 月1回の全体会議でモニタリングを行い、6ヶ月または1年毎に介護計画を見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別ケースを記録しており、情報の共有に努めている。また、変化した内容については、職員連絡ノートに記載し朝礼や夕礼の場で報告することで、個々が把握できる環境を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当日の家族の都合や利用者の状態に合わせてサービス時間や内容を変更している。また、急な宿泊にも対応できる体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニやスーパーなど利用者と共に買い物に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の意向を確認し希望する医療機関の受診を支援している。協力医院と電話やFAXを利用して指示を仰ぐこともある。	管理者は契約時に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認している。受診は基本的に家族等が付き添っているが、急変時や協力医療機関を受診する場合は職員が受診支援をしているほか、月1回の協力医療機関への定期受診も職員が付き添っている。利用者の状態に応じて協力医療機関の医師による訪問診療も可能となっており、緊急時を含め適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が日常の健康管理等を協力医療機関と十分に協議し、協力体制をとっている。また、利用者の状態を報告し下剤などの薬の調節の指示を仰いでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、経過に沿い家族、主治医とともに話し合いの場を持っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用開始時に、常時医療管理が必要な場合、重度化し施設サービスの継続が必要となった場合、状態にあった環境の確保の支援をすることを家族には、説明している。	事業所で看取り介護を実施するには課題が多いため、現在は看取りをしない方針である。 重度化対応に関する指針を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ているが、終末期の支援に関して事業所でできることとできないことを職員で話し合ったり、家族等に十分な説明をするまでには至っていない。	終末期の支援に関して事業所でできることとできないことを全職員で話し合い、明確な指針を作成するとともに、利用者や家族等に説明することを提案する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急処置マニュアルを基に職員は、いつでも振り返ることができるようにしており、マニュアル自体も誰もが把握できるようユニットのリーダー達と話し合い改良に努めている。また、救急救命の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に6回、防火管理者を筆頭に、昼夜を想定しての避難訓練を実施し、隣接の福祉施設と協力体制をとっている。また、会議の場で話し合い避難訓練や避難方法の見直しを行っている。また、万一の震災時に備え水や食料の備蓄をしている。	防火管理者を中心に昼夜を想定した避難訓練のほか、消防署立会いの総合避難訓練を合わせて年6回実施している。 避難訓練後は検討会を行って避難方法を見直すとともに、実施記録を作成している。 避難訓練に近隣住民の参加は得られていないが、隣接する特別養護老人ホームと災害時の協力体制を構築している。 災害時に備えて飲料水や乾パン、懐中電灯を備蓄しているほか、災害時には玄関そばにある売店の菓子や飲み物なども役立てることにしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに関しては、自尊心を傷つけないように気をつけ一人一人の尊厳を守ることを基本としてケアに取り組んでいる。また、個人情報保護規定を定め利用時に利用者等の同意を得ている。	職員は利用者一人ひとりを尊重し、利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 入浴介助は一人ずつ対応をしたり、トイレ誘導はさりげなく声かけをしたりしているほか、状態に応じてトイレのドアや泊まりの部屋に設置しているトイレのカーテンを閉めるなど、プライバシーを損ねない対応をしている。 個人情報に関する書類は医務室の鍵のかかる棚で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・衣服、入浴、洗濯、買い物など日常的に希望を表に出しやすい場面を作るようにしている。 ・飲み物選択メニューを実施することにより、自己決定しやすい環境を作り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動の提供、声掛けはするも強制ではない。 また、個々の希望を尊重し、柔軟な姿勢で支援するようにしており、それぞれが自分のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意見を聞き取りしながら、個々の個性を損なわないよう支援しており、希望に応じ、本人の希望する店への対応も実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、職員が行っているが、下膳は能力に応じて下膳用テーブルに運んでくれたり、運びやすくテーブルの端に寄せてくれたりと個々の状態にあわせ片付けをしている。また、お盆や食器拭き、おしぼりたたみなど手伝って頂き職員、利用者が一緒に出来る環境を作っている。	職員は利用者に声かけをしながら同じ食事を摂っている。 利用者は職員と一緒に下膳や食器拭き、おしぼりたたみなど、一人ひとりの能力に応じた役割を担っている。 七夕祭りや敬老会、クリスマス会、お節料理などの行事食を提供するほか、利用者の要望にそって寿司やラーメン、お茶とケーキなどの外食を取り入れ、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人、家族から好みや苦手なものを聞き取りしメニューを変更したり、個々の状態に合わせ量を調整している。医療的観点からの指示、留意事項や好みを職員がその都度確認できるよう一覧にして壁に張り常に確認しながら取り組んでいる。また、残食量、水分量を確認表に記載し状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	通い利用者に関しては家族、利用者に了解を得て、洗面道具を施設で預かり利用者の食後の歯磨きを実施している。個々の能力に応じて誘導、直接的介助を見極め支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	何らかの排泄支援が必要な方には、チェック表を活用し排泄パターンが把握できるようにしている。また、チェック表を基に個々のサイクルでトイレでの排泄自立支援を行なっている。	殆どの利用者はトイレで排泄ができています。 排泄支援が必要な利用者には、排泄チェック表を活用し、個人のリズムに合わせてトイレ誘導をしたり、利用者の様子を見て声かけをするほか、泊まりの部屋にトイレを設置したりして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性的な便秘があるかどうかは、本人、家族から聞き取り、個々の状態を把握し、生活の変化が影響していないか観察に努めている。ラジオ体操やリハビリ体操、散歩の声掛けなど身体を動かす機会を増やし、薬に頼ることなく自立で排泄できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望にて、毎日入る方、1日おき2日おきに入る方など様々に対応している。また、突然入浴の希望があった際にも対応できるようにしている。	一般浴槽や中間浴槽、特殊浴槽を設置し、利用者の状態に応じて安心して入浴ができるよう支援している。 利用者の希望にそって毎日の入浴や1日おきの入浴のほか、希望する時間帯にいつでも入浴ができるように対応している。 職員が自宅で採れた柚子を持って来て柚子湯にしたり、毎週日曜日は足浴を行い、楽しみながら入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的に利用者の意思確認の上で対応にあたっている。その為、日によって利用者が集まっていたり、各々の居室で過ごしたりと異なり、一人一人の生活スペースは保たれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や用量については、個々の薬情報資料を個々のファイルに綴ってあり常に確認出来るようにしている。また、薬の飲み開始の日にちや副作用についての特記事項は、朝礼や連絡ノートで伝達し一人一人の個別記録に記載するなど症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族からの聞き取りなどから趣味や役割を持って生活できるよう支援する姿勢で取り組んでいる。好きな歌手の録画番組や歌集の提供など独自のスケジュールで自由に生活されている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のペースで自由に中庭や駐車場など戸外に出掛けられるようにしている。付き添いの必要な方についても、外気に触れる機会を確保し運動も兼ね散歩の支援に努めている。また、利用者からの希望を聞き取り海や山、森林公園などへのドライブも行っている。	<p>天気の良い日は事業所周辺の散歩を支援し、なるべく戸外に出て気分転換が図れるよう努めている。</p> <p>職員は利用者から外出先の希望を聞くとともに、職員会議で話し合い、年間の外出計画を立てて外出支援をしている。</p> <p>利用者の希望で阿字ヶ浦や大洗の海を見に行ったり、寿司を食べに行ったりしているほか、花見や初詣など様々な外出を支援している。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じてお金を所持しており、館内の売店で自由に買い物できたり、通院の支払い、買物代行時の支払いを本人が行っている。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	館内の公衆電話の設置はないもPHSを職員が保持しているため、いつでも家族への連絡が取れるようになっていく。また、使用場所を定めて個人の能力に応じ、個人で携帯を保持することも認めている。また、買物代行により切手、はがき、封筒を購入することにより、投函の部分支援している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音については、家庭的な照明器具や自然光を出来るだけ取り入れ不安、混乱を招かないようにしている。また、時期にあった花を飾ったり四季折々の壁紙を作成したりと掲示物を考慮し季節感を感じられるようにしている。	<p>居間兼食堂は広く、季節の花や職員が制作した栗や柿、ススキで装飾したすだれが飾られ、季節が感じられる空間となっている。</p> <p>廊下の壁には利用者と職員と一緒に制作した花札をモチーフにした張り絵が飾られている。</p> <p>利用者が寛いだり昼寝ができるよう居間の一角にソファを配置するなど、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。</p> <p>居間やトイレ、浴室はいずれも清潔に保たれており、職員は利用者が気持ちよく過ごせるよう努めている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室で読書やテレビを観て過ごされたり、ソファベッドにて利用者同士が歓談したり、思い思いに過ごせるような空間がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家族や自室で使っていた馴染みのある家具や身の周り品を置くことにより、家庭と変わらない環境を作り安心して生活できるよう支援している。	泊まりの部屋はカーテンやタンス、ベッド、洗面台、トイレが備え付けられている。 契約時に利用者や家族等に、宿泊する場合は馴染みの物品を持参してもらうよう説明している。 利用者は使い慣れた布団や枕、タンスなどを持ち込み、落ち着いて過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路を広く確保したり、共有スペース全体に手すりを設置したりと利用者が安全に手すりを利用して歩行出来るようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 小吹ケアセンター

作成日 平成26年1月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	施設理念としてグループホームと一体化しているため、小規模多機能独自の理念が無い。	小規模多機能型の独自の理念を作る。	小規模多機能の職員で話し合い自施設にあった理念作りを行う。また地域交流に関する内容も理念に取り入れる。	3ヶ月
2	4	運営推進会議を開いても市の職員の参加が6回中2～3回という事がみられた。	全ての会議に参加していただく。	当施設では、毎回会議後に次回の会議の日程を伝えている。また、会議のある月には、通知を送っているの で現状を継続して行く。	継続
3	33	当施設では、ターミナルを行わない方針だが、重度化指針の文章では、ハッキリと明確にしている。	重度化指針の書類の作成。	施設長、スタッフを交え出来ること出来ないことを話し合い、明確な指針を作成する。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。